

平成21年度第3回日進市障害者自立支援協議会小委員会議事録

日 時 平成21年10月2日（金） 午後1時30分～午後4時00分

場 所 日進市役所第1会議室

出席者 <委員>加藤統祥 川原喜代美 脇田勝広 林和子 大島淳子
熊谷豊 小林千津子

<欠席>加藤奈々枝

<事務局>福祉部：山中参事

福祉課：松田課長、石川課長補佐

傍聴の可否 可

傍聴の有無 4名

- 議 題
- 1 団体ヒアリング実施状況について
 - 2 自立支援協議会への報告書のまとめ方について
 - 3 その他

座 長 ただいまから第3回小委員会を開催します。団体ヒアリングを実施し、中間時点だがいろいろな状況が見えてきた。アンケートも実施しているので、今後のことを話し合いたい。団体ヒアリングの実施状況について事務局から説明をお願いします。

事務局 （資料説明）

資料のヒアリングでの意見等は、委員さんからいただいている資料をもとに作成している。まだ届いていない分もあるのでこれから作成していく。

座 長 資料を事前配布できなかったもので、しばらく目を通していただきたい。

座 長 要介護認定の設問で認定なしが49人、約50%いるがこれはどういうことなのか。

事務局 65歳以上の39人の内の介護保険が必要ではない方がこれだけいらっしゃるということで、逆に24の方が介護保険が必要であるということ。また障害者年金の設問は、障害者手帳を持っている方でどのくらいの方が障害者年金を受給されているかを知りたいということで、約半数が年金を受給されているということ。

委 員 今日の進め方を整理して欲しい。

座 長 いままでのヒアリングでの意見を委員のみなさんで確認しあうこと、またヒアリングでの意見に対する感想、意見等をみなさんからいただき、今後の協議会への報告書をどのようにまとめていくのかを話し合いたい。

座 長 アンケートは今まで行ったことはないと思うが、途中の結果ではあるが事務局として何か思うことはあるか。

事務局 まだ母数が少ないので何ともいえない。

座長 ヒアリングの意見が羅列ではあるが記載してある。これらに対して何かご意見などはあるか。

委員 羅列ではなくまとめられなかったのか。

座長 この会としてどのようにまとめていくかも検討していきたい。どこの団体からの意見かも付記するかどうかなども検討したい。

事務局 本日の資料は未整理の段階だが、今までの結果を共有するためにこのような資料とした。最終的にどのようにまとめていくかは議題2であるが、ヒアリングやアンケートの結果をどのようにまとめていくかを検討願いたい。まとめかたを検討していただければそれに沿って案を作成し、さらに検討していただいてまとめていくことになる。

委員 ヒアリングに参加して、単に心配、困る、反対ということ、先を見た意見などがあり、大きく4つくらいに分けられると思う。もっと極端に賛成、反対の意見が出るのかと思っていた。また団体によっても方向性が違う。団体別にどういう傾向にあるのかが分かるマトリックス表のようなものがあったら良いと思う。きちんと文章や数値を出すより、色分けのような感じでまとめると分かりやすいと思う。個々の意見は今後の参考にもなるのでこれはこれで良いと思うが、質問、意見などに分けた方が良いし、質問には答えてあげたい。これだけのことを行って、生の声を聞いてきたのでやるべきだと思う。

座長 ヒアリングでは、福祉課からの説明の後、質問を受け、その後意見を伺ってきたので、質問なのか意見なのかということは分かるはず。

委員 疑問などがあっても言えなかった方もいるかもしれないし、他の団体で出た質問などで参考になる場合もある。

事務局 みなさんが同席していただいて、いろいろ感じられていると思う。説明が足りないとか、他の方法があるのではないかなど、そういう点でもご意見を伺いたい。

委員 ヒアリングに参加してもいろいろ感じるので、ヒアリングに参加していない他の協議会の委員はもっと分からないと思う。そういう点もきちんと伝えなければならない。

座長 本日の議題はそういう点も含めてどうまとめるのかということである。

委員 障害別の特性、心配事なども付けて、表のようなものを付けても良いと思う。今日の資料のようなたくさんの意見を付けても分かりにくいので、主だったものなどをまとめたほうが良い。

委員 整理した方が良い。

委員 どのように選ぶか、まとめるかが難しい。

委員 意見をグループ分けして、そこに団体名を明記する方法もある。

委員 例えば同じ知的の団体でも意見が違うこともある。

委員 全てのヒアリングに参加したが、障害種別での困ることが分からなかった。本来はあると思う。問いかけてもなかなか出てこなかった。そこまで議論が進

まなかつたのかもしれない。

委員 即答できない事だと思う。

委員 扶助料に関係なく、日々困っていること、サービスが充足しているかどうかなどをお聞きしたかったが、違う観点での発言が多かったように感じた。

委員 そこをどうお聞きしていくかが重要で、それに必要な説明をしなければならぬ。ある程度情報が分かっていたらよいが、突然聞いても理解しにくいかもしれない。

委員 情報提供の手続きやスケジュールの問題と、扶助料そのものの問題を分けて議論していくべきだったかもしれないと感じている。例えば障害特性に応じた情報提供のやり方は未熟だったと思う。扶助料そのものの問題の議論が深まっていなかった気がする。個人的な意見になるが、廃止して困る人はいると思うが、5000円で十分かといえば決してそうではないと思う。制度そのものの問題や課題を整理して議論を集中させることも必要だったと思う。

委員 その点はまだ過程である。例えば精神の人でも反対しているのではない。全廃が先行してしまうと、その後はどうなるのかとなる。扶助料をどういう風に使っていくのか、障害年金を受給していない人にどういう施策をおこなっていくのかを示されていくのが重要である。

委員 なぜ、どういう事で困るのが知りたかった。

委員 受給者は今の生活に当たり前のように扶助料が入っているので、扶助料がどういふものであるかという点を引き出さないと考えられないのではないか。当たり前になっている人が多いと思う。

委員 いろいろな意見をお聞きして、大切なお金なんだということが良く分かった。ただ、なぜ困るのかと話せるテーブルにどうしたら着いていただけるのかをお聞きしたいということである。

委員 それは必要である。

委員 そうでない限り、冷静に考えなければならない問題であるので、ただ困ると言われても分からないままである。

委員 特に高齢の方には現金支給は分かりやすいと思うが、ずっと保障されるものだという漠然としたものがあると思う。その現金の使い道を変えるということは考えられないのではないか。

委員 親と本人でも感じ方が違うし、知的の親でも年代によって違うと思うし、新しい事はやらなくて今のままで良いという考えもあると思う。新しい施策によって、親が亡くなった後も子どもの将来が保障されるなら賛成するという意見も多かった。

委員 見直さなければならない時期であるが、基本計画の具現化のために新しいことをやろうとした時に、市が財政的に苦しくて扶助料でしか解決できないのかというような前提がはっきり分からない。

委員 説明はもっと分かりやすくしてほしいという意見も聞いた。

- 委員 団体内でいろいろ声を掛けたが、出席率はあまりよくなかった。
- 委員 スケジュールを見直して欲しいという点、受給者にどのように知らせていくかという点を報告書に記載したいと思う。課題整理をしなければならないが、全てが関係しているので、そこをどう整理していくか。障害者年金を受給していない人が5000円で賄えるかといえればできないと思う。昭和48年からの制度を、今まで見直さずにいきなり全廃するのは感情的にもなる。次の施策が見えてくればいいと思う。見直しと同時に見えてこないといけない。
- 委員 今までの経験の中で感じるのは、勉強会などの会を重ねればいいというものでもない。見えるものは大切で形になったものは分かりやすい。
- 委員 私の団体では、説明会后に何が分からなかったのか、どういうものが必要なのかの議論が出始めてきた。こういう点には時間がかかる。障害者年金を受給していない人の所得保障を扶助料ではできないし、工賃を上げてても無理である。そうすると扶助料を所得要件をつけながら見直していくというような路線が出されないといけないと思う。
- 委員 ヒアリングでは、そのような、どういうものが必要なのかが知りたかった。
- 委員 なぜ出てこなかったかということを考えなければならない。
- 委員 なぜ出てこなかったのか。
- 委員 説明のしかたであると思う。出てきた問題を整理してフィードバックし、引き出していく作業が必要だと思う。
- 委員 精神、知的、身体でも違う。
- 委員 障害別の背景を理解して、どこをどうしたらいいのか、どうしたら聞けるかは技術だと思う。
- 委員 ヒアリングは見えないことが見えただけでも成果があったとおもう。
- 委員 見えてきたものをどう整理して、この先どうするかを議論すべきであると思う。だから時間がかかるということである。
- 委員 なかなか意見の言えない人もいる。
- 委員 そのために団体があって、汲み取る役割もあると思う。
- 委員 ヒアリング時に自分のことをみんなの前で初めて話しをした人がいた。何か彼を突き動かしたものがあつたのだとおもう。その人はヒアリング時に自己開示したので、その後のグループワークではこの問題を次の展開で考えようとしている。
- 委員 その場に参加していて話が聞けて非常にありがたかった。その人が困っている本質は扶助料ではないと思った。
- 委員 そうであるが、次の施策を見せて欲しいとまでは言えなかったことは汲み取らなければならない。どのように施策が打ち出されていけばいいのかが分かって良い。
- 委員 打ち出されていくのではなく、当事者や当事者に近いものとして私たちも含めて打ち出していかなければならないと思う。

委員 そのとおりである。

委員 ヒアリングの場では行政に打ち出せと要求している様にした。

委員 そうではない。自分たちが安心して暮らしていけるようになるにはどうしたらよいかを考えている。そういうことをまとめていくにはタイムスケジュールが短い。全ての人が納得するのは無理かもしれないが、彼は扶助料によって引きこもりからあちこちへ出かけられるようになった。それだけで良いとはいえないが。

委員 現場に携わる者として現場の一人ひとりの方のことを考えてしまうが、これは仕組みの話なので、それ以外の人の事も考えなければならない。遅れることによって困る人もいるかもしれない。

委員 それを考えるだけの情報が少ない。いろいろな意見が出ているが整理しないと分からない。

委員 いろいろな意見を知るためにヒアリングを行ったが、1回では不足だったかもしれない。

委員 ヒアリングで行政から説明を受けたので、各団体が自分たちで学習会などを行ってもよいと思う。そうするとさらに意見が出てくると思う。

委員 扶助料は、みんなに均等という考えでは見直しはできない。そういう考え方をグループのリーダーなどが持っていないと議論できない。

委員 どのヒアリングでも代わりに何をやるのかという意見が多かった。それは当事者の気持ちとして分かるが、担保が欲しいという議論で進めていったら議論が進まないという心配もある。ある程度走りながら考えていくことも大切だと思う。

委員 扶助料に代わる施策として何があるのかということ、少なくとも障害者基本計画の具現化に使っていくので22年度から総合的な相談支援センターを行うことは記載されているのであるから、その青写真くらいが見えないといけない。

委員 そういう部分と、そうではない担保の部分も意見として出ている。受給者全ての人が満足する事業ができない限り進めなくなってしまう。できることから始めていって、一つ一つのことを行っていくしかないのではないか。

委員 代替りの施策は平等であるか。サービスを使わない人もいる。施策に見向きもしなく扶助料だけでいいという人もいると思う。そういう点もここで考えていきたい。

委員 いろいろな意見が出ているが、整理しないと自立支援協議会で分かってもらえない。

座長 ヒアリングに参加したが、そこで出た意見は本日の資料に、羅列ではあるが出されている。今まで出た話は、まず、時間的に短いということ、説明する時間、考える時間が短いという点で、次のステップとしてもう一度説明を聞く機会を作ってもいいのではないかとということ。次に、走りながら考えてもいいのではないかとという点で、何を考えるのかということ、例えばセーフティーネット

の部分を考えなければならないかということ。次に、ヒアリングの方法に問題があったのではないかということで、今後もう一度ヒアリングをするという提案などを入れるということ。私がヒアリングで感じたことは、セーフティーネット的な部分で保障しないと生活に困る方がいるということや、絶対このお金が必要だという方もいるということで、その人たちにはどのような施策が必要なのかということ。移動の通院費などの施策を考えればなんとかなると思われる意見もあったので、セーフティーネット的な部分でどういう課題があって、それに対するどういうアイデアがあるのかをまとめていってもいいと思った。また新しい仕組みに、自立支援協議会と総合的な相談支援センターがあるが、自立支援協議会の役割や仕組みをオープンにして多くの人に知ってもらわないといけないということを感じた。

委員 ヒアリングで出た意見は、障害別に整理するとよいのではないか。

委員 自立支援協議会と相談センターの件は、説明はしたがみなさんに十分伝わっていないと感じた。

委員 小委員会の役割は重い。ヒアリングを行って総括するのであれば、今一度小委員会の役割を確認する必要があると思う。進みながら考えていくにしても、どういう課題があってどう解決していくかなどの方向性がなければいけない。

座長 そういう点をみなさんで話し合うということである。

委員 小委員会としてどれだけの役割と責任があるか。ヒアリングも小委員会が行ったということか。

座長 団体ヒアリングやアンケートを行って、現状をつかみ、自立支援協議会へ伝え報告していくということである。2度目のヒアリングを希望される団体があれば日程調整して行う。

委員 私の団体でのヒアリングでは、扶助料廃止が先行してしまったので反発が多かった。新事業が良く分からない段階での廃止はいけない、扶助料が本当に必要な人がいるというような意見があった。2度目の説明会は行っても状況は変わらないと思う。

事務局 ヒアリングの中で、聴覚障害、視覚障害の団体からは再度行って欲しいという意見もあった。聴覚障害の団体では、説明文を作成して読み上げるような形で実施した。意見としては自分たちにどういうメリットがあるのかという内容が多かった。

座長 報告書のおおまかなまとめ方を検討したい。少なくともあと2回は会議を行いたい。次回に報告書のおおよそのまとめ、その次に最終確認をすれば、11月に行われる予定の自立支援協議会に報告できると思う。まとめかたの方向を提示していただけるとありがたい。それをもとにたたき台を作成して検討したほうがよいと思う。中身としては、ヒアリングの報告、アンケート結果、それらをまとめたもの、小委員会としての論点と課題を整理したものなどがあると思う。

委員 ヒアリングした団体の人たちは、必ずしも受給者の平均的な方たちばかりではないので、団体の名前とともに団体の背景を添えたほうが良い。出された個々の意見は羅列でもいいので添えて、それをまとめたものを作成すればよい。表は、縦に団体、横に項目を並べてA4で収まるくらいのものが見やすいと思う。

委員 意見には障害種別も添えたほうが良い。

委員 まとめた意見からいくつかの論点を整理して並べ、課題などを加えて報告して検討していただかなくてはならない。

委員 論点整理は絶対に必要である。

事務局 表については2つくらいのパターンを考えてみる。

委員 はっきり分けしなくても分布図のようなイメージでも良いかもしれない。

委員 出た意見の裏にどういう事情があるかを見つけなければならない。

事務局 扶助料廃止を自立支援協議会に投げかけさせていただいているが、その方法を協議会からお示しいただき、それをもとに正式提案の案を練り直そうと思っている。何が問題か、実施に向けた課題は何かを整理していただき、自立支援協議会でも検討いただければと思っている。小委員会としては生の意見をもとに報告していただきたい。ヒアリングは説得するためではなく、課題などを見つけるため、検討のプロセスとして行っている。実際に、セーフティーネットはどうなるのか、いきなり廃止はどうかという意見があった。そういう点も加味して具体的な修正の方向性を示していただけるとありがたい。小委員会としては、修正の方向性とその基となる実際の意見などを示すなどで、分かりやすい形でまとめていただければと思う。

委員 具体的な修正の方向というのは、段階的に廃止していく、所得制限を設けるなどいろいろあると思う。

事務局 例えば見直しそのものがどうかとか、改正にとどめるべきではないかとかいうことで、検討の視点を教えていただきたいということである。

座長 修正するポイントを示すということ。

事務局 最終的に施策推進協議会に提案するのが正式提案である。小委員会で論点整理していただき、自立支援協議会でどういう方向性が良いのかを示していただきたい。論点整理はどのような問題があるのか整理、課題整理は見直すとしたらどういうことをクリアしなければならないかを整理するということ。

委員 ヒアリングした中で感じたが、基本計画を具体的にどう実現するかということが皆さんにはあまり無かったような気がする。

事務局 今は1年後全廃の提案をさせていただいているが、それに対していろいろ意見をいただき、実施に向けた課題を整理していただきたい。

委員 今まで全廃という前提で考えていたが、ヒアリングや協議会の検討結果によっては、これ以外の案を正式提案することもあるのか。

事務局 当事者に近いみなさんにヒアリングなどを行っていただいた。例えばセーフティーネットの具体的な提案がないと正式提案してはいけないなどとなれば、

そういう部分を検討して正式提案することになる。

委員 いくつかの条件を出していくということ。

委員 この会の役割は課題整理であって、そこから先を検討するのは自立支援協議会である。ここでは具体的にどうしたらよいかを決めるわけではない。

委員 そうであるが、自立支援協議会でのこの委員の立場は重い。

委員 いろいろ意見を聞いたのだから、特定の方向に向いた報告はできない。両者の意見を併記すべきである。

座長 ヒアリングを通じて現実を知り、意見と論点を整理して、そこからの課題を中立に出して検討の道筋的なものを出していくということである。そこには賛成、段階的に賛成、反対などの意見が含まれているという事で、現実をもとにしていくということ。

事務局 みなさんから課題をいただいて、修正する点は修正し正式提案するが、その前に市が正式提案する前に、見出された課題をクリアした上で正式提案すべきというようなことを示していただきたい。

座長 この会の報告を基に自立支援協議会で検討し、その結果を基に市が再度見直して、施策推進協議会に正式提案するという事でよいか。

事務局 そのとおり。

委員 施策推進協議会が12月の予定か。

事務局 そのとおり。

座長 自立支援協議会で議論しつくせない場合は、3月議会は見送ることもあるのか。

事務局 あると思う。

委員 スケジュールがタイトであるが、案として出しているのか。

事務局 タイムスケジュール無しには提案できないので、案として出している。

委員 そこも含めて論点と課題を整理したい。

事務局 全員の合意形成は難しい。扶助料をもらっていない人も障害福祉の対象だと思っているので、どこかの時点でなんらかの判断をして見直しに取り組みたいということ。自立支援協議会には当事者の方、事業所の方などいろいろな方がいらっしゃるので、整理していただきたいということ。

座長 いろいろご意見等が出たので、それらを踏まえて事務局で整理して資料を作成してください。

(次回の日程調整)

座長 次回は10月21日(水)14時からとします。